

平成31年-令和元年度  
自己評価報告書  
(専門学校東京クールジャパン)

自：平成31年4月01日

至：令和2年3月31日

学校法人Adachi学園  
専門学校東京クールジャパン

令和2年5月31日作成

## 1. 学校の概況

### (1) 建学の精神

一人でも多くの学生に心の触れ合いと、あらゆる技術を向上させ、最大の満足を提供する。  
そして、学園の繁栄、教職員の幸福、地域社会への貢献を目指す。

### (2) 教育理念

「感動」を『感動』でつなげる学校  
= 仕事に就き、ゲーム・アニメ・声優業界に輝く『人財』の育成

### (3) 設置課程、学科等

法人名 学校法人 Adachi学園  
学校名 専門学校東京クールジャパン  
所在地 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-8-17  
代表者 理事長 安達 暁子  
          学校長 後村 幸司  
課程等 文化教養（商業実務）専門課程 昼間部 ゲーム総合学科 2年制  
          文化教養（商業実務）専門課程 昼間部 アニメ総合学科 2年制  
          \*今年度より課程変更につき、2年生は旧課程

### (4) 学生数、教職員数

学生数数 434人（2019年度期首）  
教職員数 168人（2019年度）

### (5) 沿革

1958年：大阪デザイン研究所設立（現大阪デザイナー専門学校。Adachi学園の教育事業のスタートとなる）  
1967年：専門学校東京スクール・オブ・ビジネス設立（学園グループとして5校目）  
\*  
1983年：東京スクール・オブ・ビジネス千駄ヶ谷専門学校設立（本校の前身。学園グループとして14校目）  
1997年：専門学校東京ネットウエイブ名称変更（旧東京スクール・オブ・ビジネス千駄ヶ谷専門学校）  
2019年：専門学校東京クールジャパン名称変更（旧専門学校東京ネットウエイブ）

## 2. 学校の教育目標

AO2.5年の教育制度

◎『感動』を発信できる人間力ある人財の育成

- (1)学んだことを活かし、発信し反響（教育効果・成果）を上げるカリキュラムの実施
- (2)産学協同、イベントの推進・拡大

学校や業界に慣れ親しみ、入学後8ヶ月で始まる就職活動の準備を行うため、AO入学ではプレスクールという入学前授業を行っている。

ゲーム・アニメ・声優業界をはじめ、企業で求められているのは“人財”である。“人財”とは、ひとこと言うと、いろいろな場面において、瞬時に判断をして顧客にとってよりよい行動ができる“考える力”をもった人物を指す。ただ単に身体を動かすだけの人や、逆に、考えるだけで行動が伴わない人は、企業の即戦力とはなりえないと考えている。専門学校東京クールジャパンではそのような教育目標に向け、学習カリキュラムを2.5年で作成し教育に従事している。

### 3. 重点目標および計画

#### 産学協同の拡充

・社会で活躍できる人財の育成のためには、今の社会で通用する技術や経験を積んでいくことが不可欠である。日進月歩で変わる業界の状況と社会のトレンドを掴んでいき、常に最先端の技術が身に付けられるよう企業と協力し合い、進めていくことを目標とする。

### 4. 評価の実施について

#### (1) 対象期間

令和元年度（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

#### (2) 実施方法

- ① 自己評価委員会を設置し、委員会メンバーを中心に評価を実施
- ② 評価項目は、専修学校における学校評価ガイドラインに則って設定
- ③ 4段階判定（4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切）
- ④ 評価項目ごとに現状、課題、今後の改善方策を記載
- ⑤ 評価後は、自己評価報告書としてホームページに公開

基準1 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	1-1 学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	4	3	2
1-2 学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
1-3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
1-4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
1-5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

日本の「ゲーム」や「アニメ」は長年、海外からも注目されているカルチャーでもあり、一大産業ともなっている。専門学校東京クールジャパンでは、ゲーム業界、アニメ業界・声優業界を担っていく人財育成のため、教育の理念、目的を定めている。

「感動」を『感動』でつなげる学校とは、自分自身がゲームやアニメから受けた感動を忘れずに、今度は他の人のために新しい感動を生み出そうとし続ける人財育成を目指す学校ということであり、それに基づいて最新技術を身に付けながら創造性を高めるカリキュラムを作成している。企業とのつながりの中で業界のニーズもキャッチし、反映している。

②課題

教育理念や目的は、学校案内などのパンフレットやホームページなどで紹介しているが、在校生や保護者に向けた発信は、これだけでは不足しているものととらえている。在校生や保護者、ほか関係者にとっては、時間割や年間スケジュールなどの情報や、就職実績、就職指導内容などの情報も重要であり、その伝達にも注意を払わなくてはならない現状もある。しかしながら上記のような具体的な情報も、根本にある教育理念を認識してもらうことでより深く理解されるものと思われる。

③今後の改善方策

パンフレットやホームページといった媒体だけでなく、館内の掲示、学生証アプリ（電子学生証）など、日々目にするところへ露出を増やしていく。また教員研修、講師会などの場においても教育理念の重要性を繰り返し確認し、教職員全体が、浸透させていくという目的を共有する。

基準2 学校運営

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	2-6 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
2-7 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
2-8 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
2-9 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
2-10 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
2-11 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
2-12 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
2-13 情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

東京クールジャパンと校名変更して1年が経過し、運営方針やビジョンを元に学生の育成や環境作りが出来た年になったと思われる。情報公開の点について、自己評価や財務資料などをホームページ上でも閲覧可能にし、順次対応を進めている。

②課題

先述の通り、情勢の変化に対応しながらの運営を行っているため、定着するまでには今しばらくの時間が必要である。その中でAO2.5教育、業界EXPOといった学園独自の改革も芽を出し始めている。昨年度課題であった情報公開については整備を進めながら、ホームページへの掲載を随時行っている。校名・分野変更し1年間を経過し、教育内容・業界との連携にも着手してきつつあるが、本格的な成果を伴った教育活動や実績形成までには至っていないのが課題。コンプライアンス体制、マニュアル化、学生管理システム等は、学園全体が組織改編を含め改革途上であり、現状は複数のデジタルシステムと、出席簿などの手書きのシステムとが混在しつつも徐々に変化してきている状態である。

③今後の改善方策

現在進行中の組織体制の確立し、システムの更新、情報の整備、Web公開化のなどがスムーズに進行していくことで、学校現場においても順次状況は改善されていくものと考えている。

基準3 教育活動

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	3-14 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2
3-15 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	3	2	1
3-16 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4	3	2	1
3-17 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4	3	2	1
3-18 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	3	2	1
3-19 関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
3-20 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
3-21 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
3-22 成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
3-23 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
3-24 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
3-25 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
3-26 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1
3-27 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

各業界への就職・デビューを念頭に置き、実習・実技を中心としたカリキュラム編成とするための会議を行っており授業への反映を行ってきた。

企業や法人契約の講師を含めて関連分野の指導が可能な講師を有している。

成績・単位の評価基準は学生に対して明文化されており、年間2回の「スチューデントエコー」という学生からの授業評価も実施している。

職員の研修は年に1度、姉妹校全体で設定されている。

②課題

教育課程編成委員会の設置により、業界関係者や講師陣からのカリキュラムに対するアドバイスを受ける体制が整備され教育活動に反映できる環境が整いつつある。それに基づき、産学連携など企業との提携についてもっと広げるための活動を行っている状況である。

また、各分野の先端知識や技能を取り入れるための研修は体系的に実施できておらず来季の課題とした。

### ③今後の改善方策

職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れるための枠組みについては本年において教育課程編成委員を組織し、スタートすることができた。

指導力向上のための取り組みに関しても同様であり、複数年にわたる教育スキルの向上のための研修計画を立案し実施するとともに、関連する教育分野については、絶えず進化・発展を続ける業界の動向や現在に則したスキルにアンテナを張って、最新の技術を学び・教授できるよう意識向上を計る。

またそのためにも、研修会等への参加を体系化し教職員の指導力や技術向上を促していく。

また、常勤教員のみならず、兼務教員との協力体制や企業と連携した学内での講習会などの機会を持つことも検討する。

基準4 教育成果

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	4-28 就職率の向上がはかられているか	4	3	2
4-29 資格取得率の向上がはかられているか	4	3	2	1
4-30 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
4-31 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
4-32 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

就職活動にあたっては学生に事前・事後の報告を求めており、毎月アンケートをデータで回収、適宜フォローに努める。キャリアサポートセンターと担任間で連携し、活動進捗の把握、それに伴い、作品集のチェックを行うことで活動の第一歩でもある応募へと促している。

学内説明会や卒業生講演会、ポートフォリオ展開催など学生と業界を直接コミュニケーションがとれる機会の創出を施策としている。

求人情報については就職活動用Gmailアドレス以外に、LINE、WeChatの運用も行い、随時提供を行うと共に掲示板や授業内で紹介している。

②課題

校友会組織の目立った活動実績がなく、引続き今後の課題となる。

退学者対策としては、奨学金制度等の経済的支援の対策を講じているが、授業に支障の少ない業界に近い分野でのアルバイトの求人獲得も行っていく必要がある。

また一部授業に語学サポートとして留学生担当が入り講師と学生間のコミュニケーションをフォローすることで、修学意欲の低下している学生に対して早期の対応が可能としている。しかしながら中間層以上の引き上げには至っておらず、優れた人材の育成の輩出への貢献に注力せねばならない。

国籍問わず心理面での問題を抱える学生に対して、対面、オンラインでの個別での専門家、担任、副担任によるカウンセリングの質の向上と量的確保の両方が必要。

③今後の改善方策

卒業生の入社後の状況把握のため、グローバル・キャリアデザインセンターと学務が連携して会社訪問や業界者による勉強会を通して現場の声を拾いあげると共に、求人情報の収集、キャリア形成に必要な情報を入手し学生指導及びカリキュラムに反映していく。

学生の抱える問題は技術面、心理面以外にも多様化しており、教職員は専門分野の技術習得のみならず、カウンセリング技術向上のためにも、各分野の専門家によるセミナー受講も検討していきたい。

基準5 学生支援

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	5-33 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
5-34 学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
5-35 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-36 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	3	2	1
5-37 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-38 学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	3	2	1
5-39 保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
5-40 卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
5-41 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
5-42 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか？	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

入学後、オリエンテーションを実施、学生生活全般、学習への取組及び履修について指導を行っている。キャリアサポートセンターが主体となり毎年姉妹校合同で企業説明会の業界EXPO（500社）を実施、企業就職だけではなくフリーランスとしての活動の幅も提言、企業からの相談、助言機会の拡充など学内外の相談体制の充実を図っている。

学生募集活動の観点からも環境設備に関しては積極的に投資しており、業界動向を意識した教育設備の充実は継続していく。

法令に基いた健康診断の実施や感染症流行時の注意喚起は随時行っている。また日常的なケガや具合の悪くなった学生の対応は保健室で処置を行っている。

遠方からの学生には学生寮、学生マンションを運営している企業と提携して便宜を図り、学費面では、奨学金・特待生・学費分納などを踏まえ、就学継続を第一に事務局と担任が連携して相談に応じている。

②課題

専門のカウンセラーによるカウンセリングの学生への周知と利用促進により、支援の裾野を広げることで結果的に教育効果へと繋げていきたい。

インターンシップや産学連携は、結果的に自主的学習環境の機会の提供にもなることから、これまで以上に活発化させたい。

③今後の改善方策

修学や就職意識のモチベーションについては家庭環境や保護者への働き掛けも必要であり、入学前から保護者への対応は積極的に情報開示して対応していく。

成績表等の保護者への送付、卒業制作展・学園祭の案内だけでなく、3月ポートフォリオ展は保護者専用時間帯を設けるなど情報提供や意見交換の機会を設けた。業界的にも通年採用も増加傾向にあり、タイムリーな情報提供がキーとなる。卒業生の動向把握、それによりキャリアのある卒業生の人材紹介等も同様に行う事が可能となり、企業との関係性をより強固なものに出来ると考えている。

基準6 教育環境

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	6-43 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
6-44 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
6-45 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

PCの定期的な更新やメンテナンス、機材・設備の追加など、学生が授業を受ける上で必要な環境については問題は無く実施している。

インターンシップについても学務とグローバルキャリアデザインセンターで連携をし、積極的なバックアップも行っている。その為にも実施の手続きや企業との連携、報告などを徹底している。

平成26年耐震補強工事完了、緊急地震速報（校内放送）のシステムも完備。今年度には校舎周りに防犯カメラを設置し、不審者の侵入や夜間の防犯への対応を強化させた。

入学時に配布している学生手引き書（学習案内）に、災害対応、緊急避難先など記載しオリエンテーションで説明に加え電子学生証アプリにテキスト・マップを実装した。

備蓄品として保存水、乾パン・クッキー、防災シート、簡易トイレなどを備えている。

②課題

環境や研修に関するサポートは概ね形にはなっている。学生のインターンシップや研修については動きが激しいこともあるため、報告など随時確認できるよう引き続き連携していく。

今年度は、一時避難場所としていた東京体育館が工事が今年度初旬に完了予定の為、管轄部署の方々とも連携を図り防災訓練を実施する。

また、学内安全計画の策定とマニュアルの整備が当面の課題である。

備蓄品においては、前年度より引き続き在庫の確認・賞味期限のチェックなど装備品の棚卸しや管理とマニュアル化を図る。

③今後の改善方策

企業や業界のカンファレンスやコンペなどを実施する団体や企業も増えてきているため、学生へのサポートを含めインフォメーションを続けていく。

防災面では、増えている留学生に対して、教職員にも外国籍のスタッフを配置しているが、緊急時に不安を解消できるまでのフォローを行えるよう防災訓練とマニュアル整備の方向性を検討する

備蓄品はスペースの問題より、前年度の課題を解決できておらず地下の1カ所での管理している状態である。各フロアにスペースを確保し、分散して配置・管理方法の確立が必要。

基準7 学生の受け入れ募集

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	7-46 学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
7-47 学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか	4	3	2	1
7-48 学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

専属の広報スタッフと、教員とが協力体制を取り、体験入学などの学生募集活動を行っている。教員も率先して取り組むことで、専門学校東京クールジャパンが確立している教育制度「AO2.5教育」（AO入学予定者に対する入学前授業）などの情報がより具体的に伝わり、入学後のミスマッチの防止だけでなく、早期の就職活動準備につながっている。高校生の進路決定の早期化にあわせて、オープンキャンパスも高校1、2年へ門戸を開いているが、AO入学の受付、出願の受付は、東京都の規定に従い、入学前年の6/1～、8/1～を遵守している。学納金については、物価変動もある中で10年以上据え置いた状態である。

②課題

上記の内容を踏まえて今年度は高校1、2年時に支持していただき、高校からの新卒生の入学が増加した。「AO2.5年教育制度」が保護者の方々に理解していただいたことも結果に大きくつながっていると考える。

③今後の改善方策

新卒、保護者への周知などうまく展開できた一方、今後は、高校の範囲を拡げ、先生や進路指導教員にも支持いただくための活動が必要と感じている。

何校かと取り組みを進めている特別授業や出張授業について、今後も継続しつつ学校の認知を広めていく。

基準8 財務

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	8-49 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
8-50 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
8-51 財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	3	2	1
8-52 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

財務基盤となる学生募集への取り組みは、教職員全体で行っており、入学者は定員充足率をクリアしている。予算・収支計画については。学内の運営会議において議論を重ねたうえで決定している。また、予算の執行においても稟議申請、発注申請を上げ、承認を得てから実施することが定着してきている。毎年の会計監査は適正に行われている。財務情報公開は学園のWebサイトにおいて公表されている。

②課題

特になし

③今後の改善方策

特になし

基準9 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	9-53 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
9-54 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
9-55 自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	3	2	1
9-56 自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

法令、専修学校設置基準等の遵守は、施設、教員数、カリキュラムの整備など徹底している。年度中に東京都などによる留学生調査において指摘を受けたが、すでに改善に取り組み、報告も受理されている。個人情報保護について、教職員、非常勤講師に対してマニュアルを利用して指導をしており、意識的に漏洩が発生するなどのことは起きていない。しかしながら施設内部においては紙媒体の管理など、完全に徹底しきれていない面もあるため、より理解を深める必要がある。PC、ネットワークのウイルス対策、管理システムは学園全体で導入されたため、強化は図られているが、その理解を深める必要がある。自己評価の実施、問題点の改善は取り組んでおり、学校のWebサイトにおいても結果を公表している。

②課題

個人情報の保護において、紙媒体など、より管理を徹底するべき点がある。学生への連絡手段が多様化しているため、マニュアルなどの更新も必要としている。

③今後の改善方策

PC、ネットワークの管理システムは導入されているが、教職員にその理解を浸透させる必要がある。また、学生への連絡手段も多様化しており、意図せぬ漏洩が発生しないよう注意喚起する。施設内における紙媒体の管理についても、整理、収納を徹底するよう共有していく。

基準10 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	10-57 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	3	2
10-58 学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
10-59 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

学校の所在地となる千駄ヶ谷商店街商工会に所属しており、夏祭り際には学生によるボランティアを兼ねた模擬店の運営などを引き受けているほか、ショップCMの制作、地域のPRのためのデザインコンペへの在学生の参加など地元自治体と密接に関わりを持っている。

平成30年度には産学協同の一環で渋谷税務署から確定申告PRのためのアニメーション制作を受諾。

令和元年にはJR千駄ヶ谷駅からの依頼をもとに、オリンピック会場となる新国立競技場へ訪れる来場者も含めた観光客へ向けて地域の散策マップ映像を制作し、令和2年に千駄ヶ谷駅にて公開した。

②課題

現状での地域貢献は十分になされているが、学校の特色を上手く利用した案件が中心となっている。

地域に対する教育訓練は教育イベントとして地方でのワークショップなども毎年実施しているが、学園祭などのイベント時には地域住民の来場は少ないため、学校の一般開放日にワークショップを実施するなどの交流も検討する。同時に在校生に対してのセキュリティの強化なども必要に応じて行っていく。

③今後の改善方策

都内の高等学校からの要望に応じて、本校の有する分野での専門技術の指導をスタートしている。高校生たちの興味の高い分野でもあることから進路検討の一助となることが考えられるため、地元自治体以外の広範囲にわたっての貢献を進めて行く。

基準11 国際交流

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	11-60 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	4	3	2
11-61 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	4	3	2	1
11-62 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
11-63 学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	3	2	1

現状、課題、今後の改善方策

①現状

留学生の受け入れは学園本部（国際部）と本校の留学生担当が定期的なミーティングを行っており入国管理局への報告も徹底、適正校として認定されている。

また、姉妹校の日本語学校との連携では、日本語授業に必要な課題や動画の提供もあり、進学後も安定した日本語の学びが出来るようになった。

日本語学校訪問や学校視察・見学の受け入れのほか、教員が日本語学校に出向いて専門分野の授業を行う活動も積極的に実施している。

入学後は留学生オリエンテーションを実施、マニュアルを配布の上、学修やビザに関する諸手続き、学生生活全般のほか法令遵守の立場からも周知をおこなっており、それらは多言語展開も行い理解を深めている。しかし、入学前授業や入学後の教育イベントへの出席率の低さの改善は必要であり、現実的に日本での就業に対しての目標設定や将来像をより描く事ができるような施策は必要である。

②課題

学費延滞や出席不良を未然に防ぐために、LINEやWeChat等のSNSを活用し、個々の事情の把握や対応に努めている。授業内で学費など費用面での説明を行うなど積極的に組織として取り組んでいるものの、根本的な問題は入学時のしっかりとした進路相談、面談に尽きると思う。その為、面接の際に利用している面接シートや入学願書の改定を行い、ミスマッチや学業への真摯な取り組みについても自覚を持っていただくように更に努める事が必要だと感じている。

③今後の改善方策

令和元年度よりグローバル・キャリアデザインセンターを設置し、学科ごとに留学生担当を配置した。募集活動から入学後の在籍管理・出席管理、進路相談、国内及び帰国後の活躍の情報収集ができる体制を整えたことは業務効率的にも成果の1つでもあり機能している。

しかしながら、フォローアップが必要な層の学生に必要以上に時間をかけてしまう傾向があり、改善すべき点は多くある。潜在的な問題解決には至っていない。また、国内外の卒業生の活躍については業務上、年度内実施が出来ず達成が出来なかった。今年度はまず、卒業生在籍企業への企業訪問を中心に行う予定である。

5. 評価項目の達成及び取組状況と総合評価

全63項目中、「適切」…31、「ほぼ適切」…28、「やや不適切」…4、「不適切」…0であった。「ほぼ適切」が半数以上を占めているのは、実質的には取り組んでおり、結果や実績も伴っているが、情報の未整備、業務効率化の遅れ、新規体制の確立途上、目標数値の未達成などがあり、改善余地ありとしてある。

「やや不適切」の4項目は、情報公開（2-12）、自己評価（9-55,56）の不備についてと、「職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか」（3-21）である。これらの取組みはまだ不十分であり、優先度を高める必要がある。

全体としてはおおむね適切に学校運営をしている。社会の変化に対応しつつ教育目標の達成をするための、新規の活動や人員の増強などの改善プランも、的を射たものになっている。入学定員の充足や財務については、安定した学校運営に欠かせないものだが、現状としてはバランスが取れており、改善の余力も出せるものと思われる。

資料1-1 課程・学科編成（令和元年5月1日現在）

分野・ 課程名	昼夜別	学 科 名	修業年限	入学定員	総定員
文化教養 (商業実務) 分野	昼間部	ゲーム総合学科	2年	200名	400名
文化教養 (ビジネス) 専門課程	昼間部	アニメ総合学科	2年	80名	160名
		計		280名	560名

\* 分野・課程名は今期より変更（年度進行につき2年生は旧課程）

資料1-2 学生数（令和元年5月1日現在）

分野・ 課程名	昼夜別	学 科 名	1年	2年	合計
文化教養 (商業実務) 分野	昼間部	ゲーム総合学科	184名	123名	307名
文化教養 (ビジネス) 専門課程	昼間部	アニメ総合学科	67名	60名	127名
		計	251名	183名	434名

\* 分野・課程名は今期より変更（年度進行につき2年生は旧課程）

資料2 教職員（令和元年5月1日現在）

専任教員数
14名
兼務教員数
46名
事務職員数
8名